

道元禪師から数えて四代目の弟子にあたる瑩山禪師は、今日の私たち「曹洞宗」の礎を築かれました。

「曹洞宗」は中国の禪宗における一つの宗派で、道元禪師の師匠である如浄禪師も中国曹洞宗の流れを汲んでいました。

しかし、道元禪師は、自分が説く教えはお釈迦さまから伝わった正しい教えであり、禪宗の一つの宗派にとどまる事を嫌い、自ら宗派の名前を名乗ることはしませんでした。それが純粋にお釈迦さまの正しい教えを求め、亡くなるまで厳しい修行をされた道元禪師の信念であったのです。

時代が下り、道元禪師の純粋な正しい教えを、教団という組織で守り伝えなければならない必要性を感じた瑩山禪師は、他の宗派との違いを示し、後の代に正しい教えが歪められてしまう事を危惧して、道元禪師よりの教えを中国禪宗の流れを汲む「曹洞宗」として明確に宣言し、今日の教団の基礎を築かれたのでした。

瑩山禪師は、代表的な著書である「伝光録」の中で、

「お釈迦さまの一生が、弟子である私たちの修行の基準である、自分の考えを入れ替えてはならない」と示されています。

道元禪師が受け継いだ、純粋で正しいお釈迦さまの教えを「曹洞宗」として広められたのが瑩山禪師なのです。

また、観音さまと縁が深く人々に慈悲の心で接した瑩山禪師は、苦しんでいるすべての人々を救うことを決心され、教えによって人々を導きました。

男女の区別無く多くの弟子を育て、總持寺をはじめとするお寺をつくったのでした。こうして現在、曹洞宗寺院は、全国に一万四千以上あります。

教団の基礎を築かれ、教えを広められた瑩山禪師を、私たちは道元禪師とおなじように、今日でも敬い、大切にしているのです。

そして、道元禪師が開かれた永平寺と、瑩山禪師が開かれた總持寺を二つの本山として修行の中心としているのです。